

シエラレオネの貧困について考える

(総合的な学習「百合学院的人間学のススメ～国際理解～」高校2年生実践報告

資料1

「百合学院的人間学のススメ」 テーマ「国際理解」 2年 組 番 氏名

いままでさまざまな教科で「国際理解」特に、「貧困問題」「シエラレオネ」に焦点をあてて学んできました。さまざまな事実、取り組みに出会って、新しい視点を得、いろいろと考えたことと思います。

私たちが生きていく中で、いろいろなことに会います。本を読んだり、誰かから話をきいたり、テレビドラマから感じたり・・・一つ一つは全く関係なく皆さんの中にインプットされていくのかもしれませんが。でも、それが皆さんの中で一つになった時、それが皆さん一人ひとりのものの見方、考え方を作り上げていくのだと思うのです。

さあ、2学期の間にさまざまな授業や体験、講演会などを通して考えたこと、感じたこと、そこから見えてくるものを形にしてみましょう。皆さんの考えはアウトプットすることによって、よりはっきりした形をつくっていきます。単にわかったと思っているだけでなく、それを人に話した時、より自分にもよくわかったという経験があるでしょう。アウトプット、何かの形で自分の考えを表現することが大切です。

1 授業、講演会などで得たものを整理しましょう。

[illegible]

総合的な学習「百合学院的人間学のススメ」

高校二年 テーマ「国際理解」—貧困について考える(1)— HR

2年 組 番 氏名_____

シエラレオネってどんな国？

みなさんが協力している10円募金で集まったお金を、シエラレオネにおられるシスター根岸に送り、また、シスター根岸からのお礼状を朝礼などで読まれるのを聞いたりして、シエラレオネという国の名前には馴染みがあると思います。みなさんはシエラレオネとはどんな国だと思いますか。今、みなさんが持っているイメージを単語、または短い文で表してください。(5つあげてみましょう。)

- _____
- _____
- _____
- _____
- _____

シエラレオネ絵本をつくろう！

シエラレオネについて調べ、それをもとにシエラレオネについて知らせる絵本をつくってみましょう。

1 シエラレオネについて調べる。

インターネットで調べてみよう。Yahoo!で「シエラレオネ」と入力して検索してみよう。たくさんのページが出てきます。シエラレオネの説明のページ、シスター根岸が写っているページ、シエラレオネの人と国際結婚した人のブログのページ、シエラレオネに出張に行った人のページ、英語の観光案内のページなどもあります。まずいろいろなページを見て、シエラレオネについて知りましょう。

調べたことを全部使うわけではないでしょうけれど、まだどのようなことを中心に書くかわからないので、とりあえず、使えそうなものはメモしましょう。また、後で再度詳しく調べたいことが出てくるかもしれないので、調べたサイトのアドレスは必ず書きとめておきましょう。

2 絵本のストーリーを考える。

- ① 絵本で何を訴えるかをきめる。②主人公を決める。③ストーリーを考える。

総合的な学習「百合学院的人間学のススメ」

高校二年 テーマ「国際理解」—貧困について考える(2)— HR

2年 組 番 氏名_____

1 シエラレオネについて調べる。

☐ 国名の意味は

☐ 国の歴史

☐ どこにあるの

☐ 気候は

☐ 資源、産物は

その他、インターネットで調べてわかったことをメモしていきましょう。

絵本を書くためですから、人々の暮らしや、問題点など書きたいことに結びつく情報をさがしましょう。

マラリア: 解決策は「家」にあったー蚊帳 (ユニセフホームページより)
＜シエラレオネ＞



©UNICEF Sierra Leone
/Alexandra Westerbeek/2004

クルーベイを流れる川で遊ぶ子どもたち

ザイナブ・セサイはシエラレオネの首都、フリータウンにある大きなスラム、クルーベイを歩きながら、排水路を指差しました。「大雨が降ると、この水路はあふれてたくさんのゴミが流されてくるの。そして汚物が家の中に入ってきて、多くの問題が起こるの」と彼女は言います。

スラムの道はとても狭くて滑りやすく、いつも腐ったゴミの臭いとキャッサパの葉を料理する香りが立ち込めています。子どもたちはこの汚い川の中で、トリガイの殻や他の「価値のあるもの」を探します。目の前の豚を追いかけて、ザイナブは 7200 人が住むコミュニティが直面している問題について話してくれました。

クルーベイは、汚れた空気と水がもたらす病気によって深刻な危険にさらされています。フリータウンにある 2 つの水路は街の上流から汚物を運んできます。「ここには蚊がとってもたくさんいるの。川の水が人や動物のうんちや動物の死骸を運んでくるからよ」とザイナブは言います。



©UNICEF Sierra Leone
/ Alexandra Westerbeek / 2004

エディスの家。ベッドの上にかかっている
のが防虫剤処理済みの蚊帳

ザイナブは14ヶ月の赤ちゃんがいる妹のためにわずかなたくわえを使って防虫剤処理された蚊帳を買いました。「私の分を買う余裕はないわ。妹と彼女の赤ちゃんは私がいないと生きていけないの。少なくとも、ふたりは蚊に刺されないようにしないと。妹にはいつも言っているの。蚊に刺されないようにしなさい。刺されたら死んでしまうのよ、と」

地域の保健員、チャールス・ケムベと保健所のスタッフは、クルーベイでマラリアの発生を抑える活動に力を尽くしています。しかし容易な仕事ではありません。「クルーベイには保健センターがありますが、定期的に医療ケアを受ける人は多くありません。それは子どものいる女性も同じです。高い治療費を払わなければならないのでは、と思っているの」シエラネオネの保健施設の多くには、政府が薬と治療にかかる費用に助成金を出しています。「問題はこれらの人々は政府がすべてのものをただで配るべきだと信じていることです」

保健教室が開かれた後でさえ、保健センターを訪れる住民はほんのわずかです。「でもマラリア対策は家庭でできるのです。防虫剤処理された蚊帳の中で眠ればいいだけなんです。でも、クルーベイの住民全員に配るだけのネットがないのです」とチャールスはなげきます。

10代のお母さん、エディス・コールは、ネットを手に入れることができた幸運な女性のひとりです。保健センターで無料でもらいました。エディスの赤ちゃんはマラリアから回復しつつあります。当初は、命を落としかけたそうです。「マラリアだってわかって、夫にも私にも、娘を病院に連れて行くお金は無かったの」

しかしエディスは希望を失いませんでした。何をやってももらえるのか、何か出来るのか知らないまま、彼女はコミュニティの診療所に行きました。「治療費がいないことを知って、私は恥ずかしさでいっぱいになったの。診療所では薬までくれたのよ。あれから、私はセンターに定期的に行くようになったわ」

彼女も、他の多くのお母さんと同じように、センターではお金が無ければ治療が受けられないと思っていました。「赤ちゃんがマラリアにかかっていることは分かってたの。でも診療所が何をしてくれるのかわからなかったから、行きたくなかったの。センターがなかったら、この子は死んでいたかも」

シエラレオネでは、毎年、1000 人中 316 人の子どもたちが 5 歳の誕生日を迎える前に亡くなっています。マラリアは、子どもがかかる病気の主要な原因(50%)であり、死亡原因(33%)でもあり、子どもたちの成長にも重大な影響を与えています。妊娠中のお母さんにも貧血、栄養失調、出産前後の死亡などの深刻な影響を与えます。妊娠中にマラリアにかかると未熟児が生まれたり、流産や死産の危険性が高くなります。

今年、ユニセフは 4 万の防虫剤処理済の蚊帳をシエラレオネの女性と子どもたちに配りました。

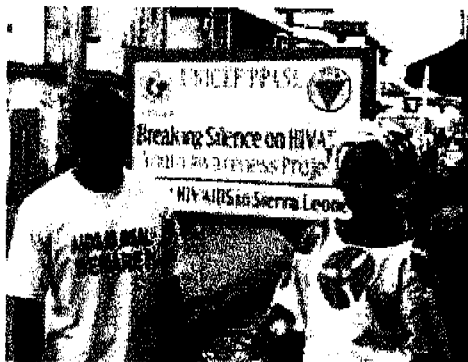
チャールス・ケムベは、エディスを地域での活動に巻き込んでいきたいと思っています。投薬治療と防虫剤処理済の蚊帳が、マラリア対策に有効なことを知っているからです。

エディスの言葉です。「保健員の皆さんには本当に感謝しているの。ここにいるすべての人に、もし赤ちゃんが病気になったら診療所に行くように言いたいわ。もし私たちが自分で自分のことをちゃんとすることができたなら、多くの子どもたちが死なずに済むのだから。彼らは私の赤ちゃんの命を救ってくれたわ。だから私も、より多くの子どもたちの命を救うお手伝いをしたいの」

2004 年 7 月 9 日

ユニセフ・シエラレオネ事務所
アレキサンドラ・ウェスタービーク

気軽に立ち寄り エイズを学ぶ ＜シエラレオネ＞



©UNICEF/Kent Page

ユニセフが運営する青少年情報センター
の前に立つ若者たち

「僕の友達はいズなんて存在しないんだって言っているよ。皆もいズは俺達がセックスをしないようにする陰謀で、それでアフリカの人口を減らすのが目的だってさ。」18歳の少年マイケルが言う。「でも、ここへ来るようになって初めていズが確かに存在するのが分かったんだ。」

『ここ』というのはアフリカ西海岸の一国、シエラレオネの首都フリータウンにある青少年情報センター。シエラレオネは西アフリカに位置する、面積は北海道ほどの小国です。ユニセフの統計によると、シエラレオネは5歳未満の子どもの死亡率が1000人中316人と、世界で最も高い国です。いズ問題も深刻で、14歳未満の子どものいズ感染者数は推定1万6,000人にのぼります。

この青少年情報センターは、ユニセフとシエラレオネ家族計画協会が運営しています。行き交う人や車で混雑した街路にセンターの出入り口があり、青少年が気軽に立ち寄れるようになっています。室内では卓球や卓上ゲームを楽しむ青少年もいます。壁にはHIV/いズを防止するためのイロハを教えるポスターが貼ってあります。「禁欲しましょう」「最初の性体験を遅らせましょう」「パートナーは一人に」「必ずコンドームを使用しましょう」などなど。

親の同伴なしで立ち寄れて、ゲームも楽しめるのが、このセンターのメリットです。1日に2回、マイケルと同年代の少年がボランティアのカウンセラーとして、また仲間として、HIV／エイズに関する知識を教え、話し合いをします。カウンセリングの終わりには、パンフレットを配ります。

実は、このセンターには裏通りに人目につかないもう一つの出入り口があります。HIV／エイズや他の性感染症に関する相談、無料の妊娠判定テスト、HIV 感染テストを受ける若者が利用する、青少年ヘルスセンターが併設されています。

シエラレオネは世界で最も開発の遅れた最貧国。10年余にわたる内戦で若者の間でも暴力や麻薬がはびこっているといえます。それでも、その中にあって若者が助け合いながらエイズ対策に取り組んでいる姿は、非常に頼もしく映ります。

武力紛争は巧妙な児童虐待

<シエラレオネ>



©:unicef/HQ95-0949/SIERRA LEONE
/Robert Grossman

「紛争は巧妙な児童虐待以外のなにものでもありません」。先ごろ、日本ユニセフ協会の招きで来日した、元モザンビーク大統領夫人グラサ・マシェル女史は強く批判します。武力紛争が多発する昨今、犠牲者の90%は一般市民。その3分の1が子どもといわれています。国連はこうした実態を調査するため1993年、「紛争が子どもに与える影響国連調査委員会」を発足。モザンビークの教育文化大臣を務めたこともあるマシェル女史に同委員会の議長を委嘱しました。女史は2年以上に及ぶ調査のため、紛争下あるいは戦後の復興期にある8カ国を訪問。「紛争が子どもたちに与える影響」を視察してきました。

12歳の時に反政府軍に誘拐され、たった3週間の「軍事訓練」の後戦場に送り出された少年。まさに「戦闘装置としてこの4年間を過ごしてきました。またシエラレオネの難民キャンプでは、食糧不足のため衰弱し、力なく横たわっている少女にも会いました。そんな

子どもたちを目の前に何もしてあげられない。「自分の無力さにいら立ちを感じました」と女史。

紛争を始めるのはいつでも大人。しかしそのツケはいつも子どもにまわってきます。人間が隣り合って生きていくうえで対立はつきもの。しかしその解決方法が必ずしも暴力的である必要はないはずです。ユニセフが推進する「平和教育」。その役割は今後さらに大きくなることでしょう。

あらゆる権利 奪い取った紛争 ＜シエラレオネ＞



1999年1月、シエラレオネの反政府勢力「革命統一戦線(RUF)」がフリータウン郊外のウェリントンを攻撃した時、メモナはたった2歳でした。一緒に住んでいたおばあさんは殺され、おばあさんはけがをし、メモナは右手をひじから

失ってしまいました。それから3日間は軍隊がまだ町に残っていたため、病院へ行って手当てを受けることさえできなかったのです。

メムナは、シエラレオネの内戦によって命を失ったり身体に障害を負ったりした何千人もの子どもたちの一人にすぎません。推定5千人の子どもたちが兵士として駆り出され、1万人以上の子どもたちが誘拐されたり攻撃から逃れようとして親と離ればなれになりました。

1月のフリータウン攻撃では、3867人の子どもたちが行方不明になり、その58%は女の子だったと推定されています。また、誘拐された後戻ってきた子どもたちの75%は性的に虐待されており、2%は妊娠していたといえます。

紛争は子どものあらゆる権利を奪い取ってしまいます。ユニセフが発表した「国々の前進1999」によると、シエラレオネは子どもの死亡率が最も高い国のひとつであり、約3割の子どもは5歳の誕生日を迎える前に亡くなってしまいます。また、6歳から14歳の子どもたちの55%は学校へ行くことができず、将来自立し、充実した生活を送るチャンスを奪われているのです。紛争下の子どもたちの権利を守るため、ユニセフは政府や他のNGOと協力して紛争時に緊急援助を行ったり、紛争終了後も子どもたちが元の生活へ戻るための支援を行っています。

7月7日、トーゴの首都ロメにおいてシエラレオネのカバ大統領とRUFが和平協定に調印した時、メムナはその証人として大統領に同行しました。カバ大統領は後に「この和平協定をメムナとシエラレオネのすべての子どもたちにささげたい」と語っています。

シエラレオネが和平協定や「子どもの権利条約」などの国際条約を守っていくかどうか世界中が注目しています。そしてだれよりも、メムナやシエラレオネのすべての子どもたちが見つめているのです

高校二年 テーマ「国際理解」—貧困について考える(4)— HR

2年 組 番 氏名

〈マラリア〉 わかったこと

感じたこと・考えたこと

〈気軽に立ち寄りエイズを学ぶ〉 わかったこと

感じたこと・考えたこと

高校二年 テーマ「国際理解」—貧困について考える(5)— HR

ユニセフホームページのシエラレオネについての記述から

感じたこと・考えたこと

〈あらゆる権利 奪い取った紛争〉わかったこと

感じたこと・考えたこと

2006 年のノーベル平和賞は、バングラデシュの農村で貧困層に無担保融資を続けてきたグラミン銀行と、同銀行を設立したムハマド・ユヌス総裁に贈られることが決定しました。ムハマド・ユヌス氏は、アジアのノーベル賞といわれるマグサイサイ賞をはじめ、数々の賞を受賞し、その功績は、本国、バングラデシュのみならず、各国で大きな評価を得ています。でも、日本では知る人ぞ知るといった感も否めません。

そこで、緊急企画！ ノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス氏ってどんな人？ マイクロクレジットってなに？ グラミン銀行ってどんな銀行なの？等々、知っておきたいユヌス氏の功績や人となりをまとめました。

貧困なき世界を目指す銀行家



バングラデシュの首都、ダッカの庶民の台所、ニューマーケット近辺にて。多くの人と派手なりキシャー（人力車）が行き交う光景は目を見張るものがあります。

ムハマド・ユヌス氏は、バングラデシュで生まれ、アメリカで経済学の博士号を取得した経済学者です。マイクロクレジットと呼ばれる貧困層を対象とした事業を考え出し、グラミン銀行を創設し、現在も総裁を務めています。

グラミンとはバングラデシュの公用語、ベンガル語で“村落”の意味。世界最貧国の1つに数えられるバングラデシュで、農村の女性や貧困層の自立を目指すことに由来する名前です。どんな人でも融資を受ける権利があり、それは基本的人権の1つだといい、そのための手法として編み出されたのが、グラミン銀行の根幹をなす事業、マイクロクレジットです。マイクロクレジットは、既存の経済学の論理をくつがえす革命的な事業と評され、途上国だけで

はなく、アメリカ、フランス、北欧など、世界 60 カ国以上に広がっています。

ユヌス氏が目指すのは貧困の撲滅です。「世界の貧困人口を 2015 年までに半減させる」ことを掲げ、新しい発想で貧しい人たちに融資をし、一方的な援助ではなく、自立を促す事業を展開していることから「貧困なき世界を目指す銀行家」と呼ばれています。

故国の大飢饉で、人生が一変

ユヌス氏は、1940 年にバングラデシュの港町チッタゴンで、宝石店を経営する中産階級の家庭に生まれました。チッタゴン大学を卒業し、母校で 4 年間、経済学講師を務めた後に、フルブ

ライト奨学金を得て米国に留学。1972年に帰国し、母校の経済学部長となりました。いわば、将来を約束されたエリートだったわけです。

そんなエリート経済学者の人生を一変させたのは、1974年にバングラデシュを襲った大飢饉でした。この年の8月、大洪水に見舞われ、食料不足に陥ったバングラデシュは、全土で5万人を超える餓死者を出したのです。教室を一步出ると、バタバタと人が死んでいく現実直面したユヌス氏は、死が近づいているとわかっている人に対して何もできないことに、経済学の無力さを感じたといいます。そして、貧しい人たちは、何が本当に必要なのか、貧困をなくすために何ができるかを知るために、大学の近隣にある農村で聞き取り調査を始めました。

貧困の原因は、わずかなお金を持てないこと



農村の女性たち。識字率はわずか40%、女性は30%程度といわれます。自分の名前すら読めない・書けない女性は珍しくありません。

このとき、話を聞いたのは42人。その人たちが必要としていたものは合計でわずか27ドルの現金でした。カゴなどの竹細工を作り、それを売ることによって生計を立てている人が、その材料を買うわずか1ドルにも満たない現金を持っていないことで、貧困の構図から抜け出せないでいたのです。

その事実、ユヌス氏に大きな衝撃を与えました。そして返済の期限を決めずに「少しずつ返してくればいい」と自分のポケットから、27ドルを貸したのです。担保はありませんでしたが、後に全額が返済されたといいます。その後も、同様の手法で多くの農村でお金を貸しましたが、1度も貸し倒れはありませんでした。この経験をベースに「弱者のための銀行を作ろう」と教授の職を辞し、1983年、

グラミン銀行を発足させたのです。それがすべてののはじまりでした。

マイクロクレジットとは？

ノーベル文学賞を受賞した詩人、ロビンドロナト・タゴールは、バングラデシュの大地を黄金のベンガルと詠いました。その源が豊かな水。バングラデシュは水の国なのです。



グラミン銀行は、ユヌス氏が編み出したマイクロクレジットと呼ばれる事業を展開しています。このマイクロクレジットが、これまでの銀

行業務を一変させ、かつ貧困層が自立するのに大きな力を

果たす画期的なものであったことが、ノーベル平和賞受賞の大きな理由です。

マイクロクレジットとは、少額無担保融資の意味を持ちます。工芸や畜産、農産物の加工、小売業などの小さな事業を興すために必要な数ドル、数十ドルという少額の資金を、資産や土地などの担保を持たない人に貸し付けるといふ事業です。

目指すのは、貧困の悪循環を断ち切ること

既存の銀行は、預貯金という形で募ったお金を必要としている人へ、担保という信用を保証に融資をするのが主たる業務でしょう。担保を持たない人は、信用力がないと見なされ、お金は貸してもらえません。

かつてのバングラデシュは、銀行からお金を借りることができない貧困層は、高利貸しからお金を借りるのが唯一の方法でした。稼いだお金も返済と高い利子にあてると底をつき、またお金を借りるという悪循環に陥り、貧しければ、貧しいほど貧困から抜け出せない構図が出来上がっていたのです。貧しい人は、わずか1ドルの現金すら持てないのは、この構図にはまりこんでしまうからにほかなりません。

富める者ほど大きな担保で多額のお金を借り、それを元にますます富む。融資を受けられない貧しい者は永遠に貧しいままという悪循環は、不平等であり、それを打ち切りたい。ユヌス氏は、その思いから、担保がない貧困層でも、借り手は同性が5人一組となってグループを編成し、連帯責任を負うことを条件にお金を借り、それを元に自立を目指すシステムを生み出しました。それがグラミン銀行のマイクロクレジット事業です。

貧しい人にだけお金を貸すのが条件



製塩工場で働くこの女性の仕事は、パッケージのラベル貼り。狭い薄暗い部屋で黙々と作業をしています。それでも、手にできる給与はほんのわずかです。

グラミン銀行がお金を貸すのは、土地を全く持っていないか、0.5 エーカー(約二反:600 坪)未満の耕作地しか持っていないことが条件とされています。バングラデシュでは2~4エーカーの豊かな土地を持っていれば、地主として生活できるといわれることがその理由です。

つまり、お金を貸してくれるのは貧しい人だけ。資産を持っている人にしかお金を貸さない既存の銀行と全く逆の発想です。グラミン銀行が“貧者のための銀行”と呼ばれるゆえんがここにあります。

借り手は銀行に行かない銀行

もう1つグラミン銀行の特徴に、「借り手は銀行に行か

ずに、銀行員が訪問する」ことが上げられます。

お金を借りる人たちは、小規模な事業を興す前にその収益を踏まえた返済計画を各自で作し、グループ内で話し合います。銀行の各支店は定期的に借り手グループの住む地域を訪ねて集会を開き、事務手続きをし、返済計画の説明もするという仕組みです。

日本のような豊かな国では想像できませんが、農村で暮らす貧しい人や、学校に行く機会がなく文字の読み書きを習得できなかった人にとって、銀行のオフィスに出向くのはとても勇気のいる行動です。

「貧しい自分に本当にお金を貸してくれるだろうか」

「人として対等に扱ってもらえるのだろうか」

等々の不安を持ち、「来てください」と言われても簡単に足を向けることはできません。

その不安を取り払うために銀行が出向くことを原則としているのです。銀行員が村を訪れ、融資によって家族の生活がどう改善するかなどのメリットの説明を受けることで、「じゃ、借りてみよう」という気持ちが生れます。銀行員が自ら出向くということが、グラミン銀行を成功させた重要な要素なのです。特に重視する女性たちへ融資を広げることにも大きな効果を発揮しました。

子どもの利益に直結する女性への融資



イスラームの古い慣習が残るバングラデシュでは、市場で物を買う人も買う人も男性ばかり。女性が店頭立つ姿を見ることはなかなかできません。

グラミン銀行は、貧困層の中でも特に女性に融資することを重視しています。イスラームやヒンドゥーの古い慣習の根強いバングラデシュは男性優位の社会で、お金の管理や買い物は男性の役目です。お金を触ったことのない女性もいるほどです。

そういった社会で女性に融資するなんて通常はあり得ません。当初、男性たちからは、強い反発もあったといいます。でもあえて女性へ融資したのは、女性の自立を促すことはもちろん、それが、子どもの利益に直結するためでした。

女性は子どもの栄養状態を向上させ、教育のためにお金を使います。さらに、長期の将来の見通しを持ち、貧困から抜け出したい、今よりよくなるという気持ちが男性より強い傾向があるといわれます。ユヌス氏は、女性の持つ力を信じ、支援することで、貧困の悪循環からの脱却を目指したのです。

今では融資を受けている人の95%が女性、そしてその返済率も99%に達しています。(2005年の実績)

融資を受け、借りたお金を返済することには、単にお金をやりとりした以上の意味があります。自信と自尊心が芽生え、やればでき

るという意欲と、貧しい生活から抜け出せるかもしれないという希望が生まれてくるのです。それがグラミン銀行の目指すところでもあります。

システムは万能ではない



農村の子どもたち。融資を受け、仕事が軌道に乗ることで、子どもの栄養状態や着るものに変化が見られます。十分な教育を受けさせ、大学へ行かせたいという希望を持つ親も少なくありません。

グラミン銀行は巨大な組織へと成長し、融資の相談を受け入れるセンターは、9万6000カ所以上に上っています。

一方では、その方法に批判的な人もいます。「本来なら自ら立ち上がるべき貧困層をお金で支援してその力を奪ってしまった」という非難、「高い返済率は、でっち上げだ」という中傷、そして「物乞いをする人など、本当に救うべき人たちを救っていない」といった批判などです。そういった批判にユヌス氏は、あるドキュメンタリーでこう答えていました。「私はマイクロクレジットを万能薬として売り込んではいません。重要な役割を果たしていますが、すべての問題を解決できるわけではないのです。ただ言えることは、何でもあきらめずに頑張ってみるべきことではないでしょうか。貧困だから、女性だからとあきらめずに

やりたいことをやってみること。そのためにこの制度を利用してもらえればいいと思います」(「レッドフォードが語る世界のニューヒーロー」NHK BS1 2006年1月4日(水)放送分より)

システムは万能ではなく、それを生かすも殺すも使う人次第。貧困を救うという情緒的になりがちな活動を、現実的な方法で解決してきた経済学者らしい言葉です。貧しい人が貧困を解消し、自立的に生きる意欲を生むシステムを編み出し、しかもビジネスとして銀行を成功させたムハマド・ユヌス氏。その功績は、ノーベル平和賞のみならず、経済学賞にも匹敵するのではといわれています。

ユヌス氏をもっと知るための2冊

ユヌス氏の関連書籍はこの2冊。全体像を知るには「ムハマド・ユヌス自伝」、融資のシステムや現場の生の声を知るには「グラミン銀行を知っていますか」がおすすめ。



グラミン銀行では、批判への具体的な解決策として物乞いをする人に融資するという試みも始めています。2005年には2000人に20ドルずつ貸し付けました。これは返済計画を求めず、初めて27ドルを貸し付けたときと同じように、少しずつ返せばいいとするものです。

ビジネスとして考えれば、新たなリスクを背負う事業拡大ですが、貧困の解消を目指して、常にチャレンジを続けているのも素晴らしいと思います。ガイドも1998年にユヌス氏が来日された際に、講演会に行きましたが、論理的な手法で社会を大きく変革していることに「こういう人を現代の革命家と呼ぶのだろう」と感銘を受けました。

ムハマド・ユヌス氏をもっと知るために、関連の本は現在2冊出版されています。1冊は「ムハマド・ユヌス自伝—貧困なき世界をめざす銀行家」(ムハマド・ユヌス&アラン・ジョリ著、猪熊弘子訳・早川書房)、もう一冊は「グラミン銀行を知っていますか」(坪井ひろみ著・東洋経済新報社)です。前者はユヌス氏とグラミン銀行の足跡を知るために、後者は、グラミン銀行の詳しいシステムと、それによって貧困を抜け出せた女性たちの実例が、地道なフィールドワークによって集められた生の声として知ることができます。

■ 自伝の翻訳者から、メッセージ

「ムハマド・ユヌス自伝」の翻訳者の猪熊弘子さんのメッセージを紹介します。

「翻訳本を出版した後で、来日したユヌス氏にお会いしました。にこやかな微笑みを絶やさず、穏やかな口調で話してくださる、とても優しい方でした。世界で最も貧しいといわれるバングラデシュで生まれ、豊かなアメリカで学んだユヌス氏は、自国の貧しさを救うために何をすればいいか考えに考え、自分がアメリカで学んだ経済学の知識を逆手にとってマイクロクレジットを考え出しました。働きたい…という気持ちがあっても、誰もお金を貸してくれないために何もできず、貧困から抜け出せない大勢の人々。特に貧しい女性の力を信じて、彼らが貧困から抜け出すための銀行を作り上げたのは、経済学の観点からも素晴らしいと言われています。

今回、ノーベル平和賞を受賞したことで、ユヌス氏とグラミン銀行のスタッフたちの長年の地道な努力が、ようやく世界に知られることになるはずです。日本で唯一のユヌス氏の著書の翻訳者としては、そのことがいちばん嬉しいですね」

この本を読むと、マイクロクレジットが試行錯誤の上に作られた精密なシステムであることがわかります。ユヌス氏の人となり、そしてグラミン銀行を知るにはとてもオススメです。また、貧困の国というイメージばかりが伝えられるバングラデシュの豊かな文化を知る手がかりにもなるでしょう。ぜひ手にしてみてくださいね。

総合的な学習・百合学院的人間学のススメ

高校 2 年 国際理解 貧困について

2 年 組 番 氏名

ノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス氏の話を読んでの感想を書きましょう。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are approximately 20 lines visible. The paper appears to be a standard notebook or legal pad style. The edges of the paper are slightly irregular, suggesting it might be a scan of a physical document. There is no handwriting or other markings on the page.

総合的な学習「百合学院的人間学のススメ」

高校二年 テーマ「国際理解」—貿易ゲーム— HR

2年 組 番 氏名_____

貿易ゲームを終えて

1 どのグループ

() 国名 ()

2 このゲームの課題「できるだけ多くの富を築く」ために、あなたまたはあなたのグループの人はどのような行動をとりましたか。

3 ゲームをしていて、どのように感じましたか。

4 他のグループの人の意見を聞いて、その気持ちを想像しましょう。

先進国_____

新興国_____

発展途上国_____

5 世界における貧富の差についてどのようなことを考えますか。

6 公正な貿易をするために考えられることはどのようなことですか。

総合的な学習「百合学院的人間学のススメ」

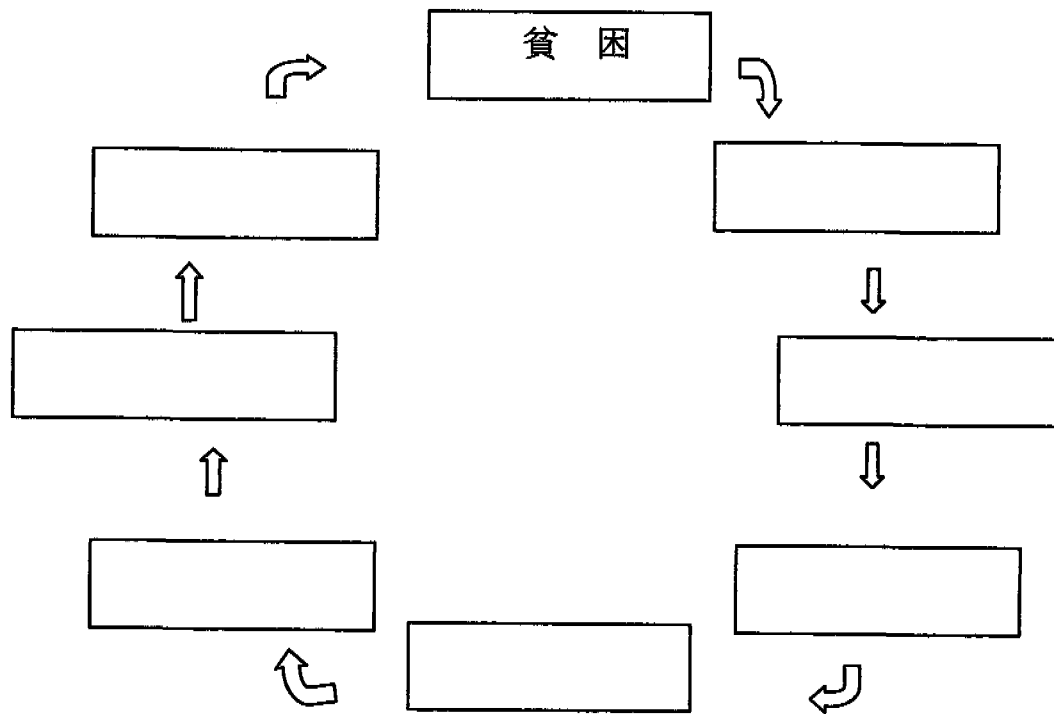
高校二年 テーマ「国際理解」— 貧困の輪について考える (1) — HR

2年 組 番 氏名 _____

1 貧困の輪について考える。

模造紙の上部中央に「貧困」と書かれたカードを置き、そのカードを出発点に残りの7枚のカードがどのような順番でつながっていくのか因果関係を考えながら円状に並べる。(のりで貼る)

自分達の考えた因果関係を書き込もう。



上で考えた悪循環を文章にして表現しよう。

総合的な学習「百合学院的人間学のススメ」

高校二年 テーマ「国際理解」— 貧困の輪について考える (2) — HR

2年 組 番 氏名 _____

2 「貧困の輪」を見て、どうすれば貧困を減らすことができるかを考えよう。

「貧困の輪」(悪循環)のうち、最初に断ち切りたい場所(カード)と方法、その理由を考えて書きましょう。

○ 最初に断ち切りたい場所

○ 方法

○ 理由

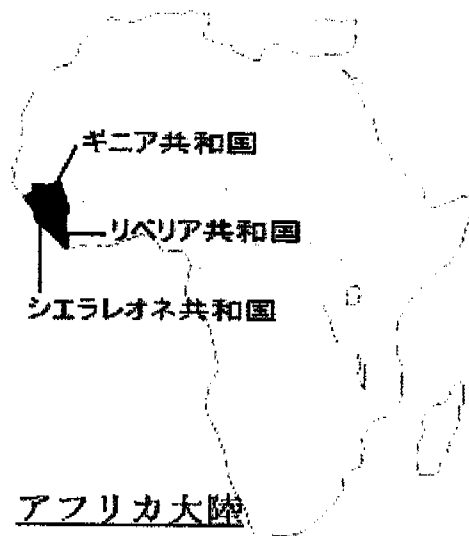
3 他の班の発表を聞いてなるほどと思ったこと

4 本日の活動でわかったこと、考えたこと

高校二年 テーマ「国際理解」—大学の先生による講演会—

2年 組 番 氏名

○ お話を聞いてわかったこと、考えたこと、感想を書きましょう。



シエラレオネ共和国は、西アフリカにある北海道ほどの大きさの国で、大西洋に面しています。この国では、1991 年からダイヤモンド山の利権などをめぐる内戦が始まり、民間人が手足を切断されるなど、残虐行為が繰り返行われました。現在は内戦は終結し、政情は比較的安定してきましたが、もともと貧しい国だったので、まだまだ復旧には時間がかかりそうです。この項では、シエラレオネはどのような歴史をたどって来たのか、現在のシエラレオネはどのような国なのか、簡単にご紹介します。

シエラレオネ 一般事情 外務省、海外勤務健康管理センター、WHO などのウェブサイトから作成

国土・国民

面積	71,740 平方 km(北海道の約 86%)
国境	北部と北東部でギニアと、南東部でリベリアと接する。
風土	海岸から内陸部へ約 80km は平野。北東部のギニアとの国境付近は山岳地帯(最高峰はロマ山、948m)。南部は熱帯林。チンパンジー、ワニ、カバなどが生息。
気候	熱帯モンスーン気候。1 年の平均気温は摂氏 27 度前後。5 月から 10 月は雨季で、その他は乾季。
人口	約 476 万人(2002 年現在)
住民	原住民では、中西部に住むティムニ族と南東部に住むメンデ族が主要部族で、ほかにリンバ族、ロコ族など多数の部族が暮らしている。そのほかに解放奴隷の子孫など。
言語	英語(公用語)、各部族独自の言語
宗教	イスラム教約 60%、キリスト教約 10%、伝統宗教約 30%。 宗教の自由は比較的保障されている。
インフラ	電気、水道、道路など、あらゆる生活基盤が首都フリータウン以外の地域ではほとんど整っていない。首都でも制約が多い。

政治

政治体制	共和制。地方では首長(チーフ)とそれを統括する大首長(パラマウント・チーフ)が大きな権限を持つ。
国家元首	アルハジ・アフマド・テジャン・カバ大統領(2005 年 1 月現在)
議会	一院制国民議会
首都	フリータウン
地方自治	13 の州がある。
外交	西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)などに参加。
軍事	兵力約 1 万 4000 人。志願制。

経済

	鉱業、農業。ダイヤモンド、コーヒー、ココアなど。
主要産業	かつては世界有数のダイヤモンド産出国だったが、鉱脈の枯渇や盗掘のため、現在では年間産出量は大幅に下がっている。
経済成長率	6.9%(2003 年)
失業率	不明
総貿易額	[輸出]1 億 300 万ドル [輸入]2 億 9000 万ドル
主要貿易品目	[輸出]鉱物(ダイヤモンド等)、コーヒー、ココアなど [輸入]機械、輸送機器、食料品、燃料など
主要貿易相手国	アメリカ、ベルギーなど
通貨	レオン
為替レート	1 米ドル≒2,500 レオン(2004 年)

日本との関係

	日本はシエラレオネを独立と同時に承認。
公館	1962 年 8 月、在リベリア大使館兼任で大使館開設。 1991 年 6 月からは在ガーナ大使館で兼任。 シエラレオネ側の日本公館は在中国大使館が兼任。
貿易	[日本からの輸出額/主要輸出品目] 6 億 1800 万円/乗用車、液体ポンプなど。 [日本の輸入額/主要輸入品目] 5600 万円/魚、ダイヤモンドなど。
在日人数	47 人(2003 年 12 月現在)

健康

平均寿命	【男性】32.4 歳 【女性】35.7 歳 (男女とも 2002 年)
健康寿命	【男性】27.2 歳 【女性】29.9 歳 (同上)
5 歳児死亡率	【男児】1000 人あたり 332 【女児】1000 人あたり 303 (同上)
成人死亡率	【男性】1000 人あたり 682【女性】1000 人あたり 569 (同上)
主な病気	黄熱、肝炎(A 型、B 型、C 型)、マラリア、結核、破傷風、狂犬病、エイズなど。

教育

教育機関	初等学校、中学校、大学(シエラレオネ大学)キリスト教ミッション校など。
識字率	約 20%

シエラレオネの歴史(1) ヨーロッパ人と解放奴隷の到来

シエラレオネの歴史は、ほとんどヨーロッパ人によって綴られてきました。現在のシエラレオネに相当する地域には、ティムニ族やメンデ族といった様々な現地の部族が独自に暮らしていたのですが、そこにヨーロッパ人がやってきたのは 15 世紀中期のこと。当時のヨーロッパの覇者はポルトガル。同国のエンリケ航海王子 (Henry the Navigator, 1394-1480) の海外探検奨励に応じて、数々の探検家がアフリカ大陸西岸を陸地沿いに少しずつ南下し、現在のシエラレオネにもやって来たのです。

“シエラレオネ”という名称は、「ライオンの山」を意味するポルトガル語が変化したものです。1462 年にシエラレオネを訪れたポルトガル人ペドロ・ダ・シントラの一行が、現在のシエラレオネ半島にある山脈を横たわるライオンに見立て、そのように名付けたということですが、山脈から聴こえる雷鳴がライオンの咆哮のように聴こえたため、という説もあります。ちなみに、シエラレオネにライオンはいないそうです。

シエラレオネ到達後、ポルトガル人はさらに南下して行きます。そのため、シエラレオネはポルトガルの補給・交易基地となりました。同時に、キリスト教の宣教活動も行われました。イスラム商人がヨーロッパ人より早くシエラレオネを訪れていたのか、現在でもシエラレオネ国民の大半はイスラム教徒なのです。

17 世紀に入ると、ポルトガルは没落し、代わりにオランダが台頭するのですが、シエラレオネに交易所を設けたのは海軍大国となる少し前のイギリスでした。目的は主に奴隷貿易です。当時のイギリスは、オランダやフランス同様、カリブ諸島に農園を持っており、そこに西アフリカからの黒人奴隷を労働力として供給したのです。ジョン・ホーキンスやフランシス・ドレークといった、有名な海賊・奴隷商人・海軍人も、シエラレオネにきています。

彼ら奴隷商人は、現地の部族間紛争に目を付け、戦いに負けて捕虜となった部族の者たちを勝利した部族

から買い、奴隷として売りさばいたということです。奴隷貿易に始まったイギリスとシエラレオネの関係は、20 世

紀まで続くことになります。

18 世紀後半、イギリスでは奴隷廃止運動が盛んになりました。その影響で、1787 年以降、白人に加え、イギリス植民地であったカナダなどの解放奴隷がシエラレオネに入り、1792 年には現在の首都、フリータウンがシエラレオネ半島に建設されます。そして 1808 年、これまで民間のシエラレオネ会社の植民地だったフリータウン周辺は、イギリスの直轄植民地に。前年に奴隷貿易を禁止する法案がイギリス本国で可決され、1833 年に奴隷制度そのものが廃止されると、解放奴隷の定住地として、フリータウンの開発が進み、シエラレオネの人口は急増していきました。

そして 19 世紀中期から 20 世紀初頭の、イギリス、フランス、ドイツといった欧州列強によるアフリカ分割統治の時代が訪れます。この頃には、西アフリカ支配におけるイギリスの重要な拠点となるほどにまで、シエラレオネは発展していました。

シエラレオネの歴史(2) 独立～内戦前夜

第一次世界大戦が終わると、クリオールと呼ばれる解放奴隷の子孫たちが中心となって、シエラレオネ独立運動が展開されます。クリオールはシエラレオネに設立されたイギリスの教育機関(現在のシエラレオネ大学)で学び、キリスト教徒の官吏として植民地行政に携わっていたのですが、必ずしもイギリス本国に従順であるとは言えなかったため、20 世紀に入る頃には疎外されていた人々です。

独立運動が実を結んだのは、1961 年に入ってからでした。多くの独立国家がアフリカに誕生したこの時代に、シエラレオネもイギリスからの独立を勝ち取ったのです。最初の選挙で、南部(かつての保護領、ダイヤモンド鉱山などがある)に暮らすシエラレオネの主要民族の一つ、メンデ族を代表するシエラレオネ人民党(Sierra Leone People's Party; SLPP)が与党となり、初代首相に SLPP の指導者、ミルトン・マルガイ(-1964)が就任しました。

1967 年の選挙では、シエラレオネ中部に住む大部族、ティムニ族やクレオールの支持を得ていた野党、全人民会議(All People's Congress; APC)が勝利しました。この直後、軍事クーデターが発生し、軍と警察がシエラレオネを支配することになるのですが、翌年、またも軍事クーデターが発生、これにより軍事政権は崩壊し、SLPP と APC の連合政権が成立、APC のシアカ・スティブンスが首相なり、民政が再開されました。

ところが、1971 年 4 月、シエラレオネが共和国に移行し、スティブンスが初代大統領となったあと、SLPP を排

除して圧倒的な勢力を持っていた APC は 1978 年、憲法を改正し、一党独裁へ踏み切ります。

APC による一党独裁時代、シエラレオネ南部のダイヤモンド採掘事業が国家事業となり、その利潤が閣僚や

上級官僚の懐を潤しますが、一方で、当然のように、と言っていいかもしれませんが、インフラストラクチャーの整備は進まず、一般市民の生活は改善されませんでした。

このような独裁政権に対し、シエラレオネ大学の学生などが反政府デモを展開しましたが、それらは功を奏しませんでした。

1985 年には軍の司令官ジョゼフ・サイドゥ・モモ少将が 2 代目の大統領に就任し、一党独裁体制は約 12 年間、継続することになるのです。

シエラレオネの歴史(3) 内戦 1 1991 年～1995 年

シエラレオネの民主化が本格化したのは 1990 年頃からでした。1991 年 8 月、複数政党制を認める憲法が議会で可決されるのです。

ところが、同年 3 月、シエラレオネ革命統一戦線 (Revolutionary United Front of Sierra Leone; RUF) が蜂起し、進み始めた民主化は中断されてしまいます。これ以降のシエラレオネの歴史は、シエラレオネ政府と RUF の抗争の歴史です。

RUF は 1990 年頃からシエラレオネ政府に民主化を要求し、内戦開始も辞さない構えを見せていた反政府ゲリラ組織です。「革命」という名称から、左翼的な組織のようにも思えますが、上層部の一部を除き、一般兵は特に政治的イデオロギーを持っていたわけではありませんでした。組織の大枠は 1970 年代の反政府学生運動の中から誕生したものの、最終的に組織の中核を担ったのは非行青年たちに過ぎなかったのです。

RUF 代表のフォディ・サンコーは、リベリアで反政府勢力を率いたチャールズ・テイラーとつながりがあったので、RUF は彼の支援を受けていました。1998 年 5 月、当時リベリア大統領だったテイラーはシエラレオネ紛争への関与を否定しましたが、RUF がシエラレオネ南東部で採れるダイヤモンドをリベリアに提供し、代わりにリベリアは武器を RUF に提供していたといわれています。

1991 年 3 月 23 日、RUF はリベリアからシエラレオネ南部に入り、前年の宣言どおり、戦闘行為を実行に移しました。シエラレオネ内戦の始まりです。強大な軍事力を保持していたわけではないシエラレオネ政府はナイジェリアやギニアに支援を要請し、RUF に選挙された地域を奪還していきましたが、1992 年 4 月、軍事クーデターが発生し、モモ大統領はシエラレオネの民主化を果たせないまま、ギニアへ亡命します。

1992 年 5 月、ヴァレンティン・ストラッサー大尉が 26 歳の若さで国家暫定統治評議会 (National Provisional Ruling Council; NPRC) の議長として国家元首に就任し、若干の民間人を含む軍事政権がシエラレオネに成立

しました。

当時、RUF はシエラレオネ東部や南部の地域を占拠し、首都フリータウンに迫っていました。1993 年中にシエラレオネ政府軍は占領地域の多くを奪回しますが、翌 1994 年からも RUF による町や村の襲撃、民間人の

殺害、水力発電所の破壊などが相次ぎ、外国人が RUF に拘束される事件も多発。捕らえた子どもを麻薬を利用して戦闘員に仕立てる、いわゆる「少年兵」も、この頃から RUF 内に増加していったのです。

1995 年 1 月、ストラッサー政権は RUF に和平提案を行いますが、RUF のフォディ・サンコーはこれを拒否し、交渉は失敗に終わってしまいます。

一方、ストラッサー政権は前政権から受け継いだ政府内の腐敗を一掃することに努め、1993 年 4 月には、政治犯の釈放と 3 年以内の民政復帰を宣言しました。

シエラレオネの歴史(4) 内戦 2 1996 年

国の建て直しにストラッサー政権は奮闘するのですが、1996 年 1 月、軍事政権ナンバー 2 だったジュリアス・マーダ・ビオ准将が無血クーデターを成功させ、ストラッサーは追放されます。とはいえ、ビオ准将は大統領および国会議員選挙の実施を確約し、民政移管計画はビオ政権に受け継がれることになりました。

1996 年 2 月 26 日から 27 日にかけて、13 の政党が参加する大統領・国会議員選挙が行われます。3 月の決選投票の末、大統領に選ばれたのはシエラレオネ人民党 (SLPP) のアルハジ・アフマド・テジャン・カバ党首。彼は 3 月 29 日に大統領に就任し、シエラレオネの国家元首となりました。

一方、同年初頭にはビオ政権と RUF が和平交渉のテーブルにつくに至ったものの、決裂してしまいます。2 月には、RUF が選挙妨害の目的で村を襲撃し、20 名余りの村民を殺害したうえ、数名の民間人の手を切断するという事件が起きました。この頃から、シエラレオネ内戦の特徴の一つである、RUF による民間人の手足や指の切断が増えていったのです。その対象は、選挙に行った大人だけとは限りませんでした。現在のシエラレオネには、腕の無い子どもたちがたくさんいます。

11 月 30 日、カバ大統領の和平優先政策が功を奏して、シエラレオネ政府と RUF との間に和平が成立しました。和平協定調印がコートジボアールのアビジャンで行われたため、この和平協定はアビジャン和平協定、あるいはアビジャン合意と呼ばれています。

しかし、この和平も長くは続きませんでした。RUF は依然として政府を批判、民間人への攻撃を継続したのです。RUF は規律によって統制された軍隊ではなく、ゲリラ部隊であり、上層部の停戦指示が十分実行されなかったのです。1997 年 3 月に、サンコーが武器不法所持容疑によりナイジェリアで同国政府に拘束されると、RUF の指揮系統はいっそう混乱します。RUF 内部に二つの勢力が生まれ、一方はサンコーを排除した新たな司令部によって政府と和平プロセスを進めると言い、他方は RUF 人員の大半はサンコーを指示していると主張し、フリータウン攻撃を掲げてサンコーの解放を訴えました。

シエラレオネの歴史(5) 内戦 3 1997 年～1998 年

一方、政権側では、カバ大統領の軍待遇政策に不満を持ち、親 RUF 的になった軍の一部勢力が、1997 年 5 月 25 日早朝、クーデターを成功させます。過去の軍事クーデターを踏まえ、軍部の発言力を縮小するために実施してきたカバ大統領の政策は、完全に裏目に出てしまったのです。カバ大統領はギニア

に亡命、入れ替わるように RUF 勢力がフリータウンへ流入していきました。

翌 6 月には国軍統治評議会 (Armed Forces Ruling Council; AFRC) が設置され、議長の座にジョニー・ポール・コロマ少佐、副議長には RUF のサンコーが就きます。政権は AFRC と RUF が合同で担当するという形になったのです。

コロマ議長は数年後の民政移管を宣言しましたが、カバ大統領が合法的かつ民主的な手段で政権を勝ち取っていたので、国際社会はクーデターを厳しく批判します。ナイジェリアは西アフリカ諸国経済共同体停戦監視団 (ECOWAS Cease-fire Monitoring Group; ECOMOG) の名をもって、武力によるシエラレオネ軍事政権打倒も辞さない構えを示し、欧州連合 (European Union; EU) はシエラレオネへの開発援助を停止しました。国連安全保障理事会も、シエラレオネに対する経済制裁を決議します。

1997 年夏、ECOMOG ナイジェリア軍が本格的にシエラレオネ攻撃を開始し、ルンギ空港周辺などで銃撃戦や空爆が繰り返されました。10 月 23 日、半年後の民政移管実現を条件に和平合意に至ったものの、合意に基づく武装解除は進まず、戦闘は継続。首都機能が麻痺したフリータウンの治安は極度に悪化し、略奪や暴行が横行する町になってしまうのです。

ECOMOG を管轄下に置く西アフリカ諸国経済共同体 (Economic Community of West African States; ECOWAS) はシエラレオネ軍事政権との平和的な停戦合意は不可能と判断し、1998 年 2 月 12 日、フリータウンを制圧。翌日には軍事政権関係者を拘束し、コロマ政権は崩壊します。3 月 10 日にはカバ大統領が帰国して政権を取り戻し、その 6 日後には国連安保理による経済制裁措置が解除されました。

この間、多くの AFRC および RUF 兵士は ECOMOG に降伏しましたが、反政府勢力の残党は北部および東部へ逃れ、再び民間人に対する残虐行為を開始します。そのため、4 月初旬、ナイジェリア軍を中心とする ECOMOG がその制圧に乗り出しました。軍事政権が倒れても、シエラレオネ内戦は終わらなかったのです。

シエラレオネの歴史(6) 内戦 4 1999 年～現在

1999 年 1 月、一旦退いていた RUF 勢力は再びフリータウンに達し、市街戦を展開します。一時はフリータウンの東部および南部が RUF に制圧されますが、1 週間強のうちに ECOMOG が奪回に成功しました。

5 月 18 日、カバ大統領とサンコーが停戦合意に調印、7 月 7 日にはサンコーの副大統領就任や RUF の政党化などを条件としたロメ和平協定が締結されました。11 月には DDR (Disarmament, Demobilization, and Reintegration; 武装解除・動員解除・社会復帰) 計画実施のため、国連シエラレ

オネ・ミッション (United Nations Mission to Sierra Leone; UNAMSIL) がシエラレオネに入ることになります。

しかし、その後もシエラレオネ情勢は安定しなかったため、2000年11月に新たにアブジャ停戦合意

が成立、さらに2001年5月、フリータウンでシエラレオネ政府とRUFは改めて停戦合意に調印し、武装解除の実施方法についても合意が成立します。ここに至り、RUFの少年兵解放 (UNAMSILなどへの引き渡し) やDDR計画が進行していきました。

武装解除が進み、戦闘状態は終わったと見られたため、2002年1月18日、カバ大統領は国家非常事態宣言を解除、約11年続いた紛争は、ようやく一応の終結を見たのです。内戦による死者は最低でも5万人、難民は約36万人、さらにRUFに手足を切断されて「障害者となった人が数万人いるとされています。

5月には大統領・国会議員選挙が実施され、現職のカバ大統領が当選、6月より5年間の任期が始まりました。ちなみに、RUFのサンコー代表はロメ和平協定後に群衆の抗議を受けて失踪、やがて身柄を拘束され、殺人罪や人権侵害の罪に問われていましたが、2003年7月に獄中で死亡しました。

2004年2月には、DDR計画が終了。最大17,500人規模だったUNAMSILも縮小を進め、2005年6月までシエラレオネに留まることになっています。

シエラレオネ情勢は確実に安定してきましたが、まだ内戦は終わったばかりであり、行政レベルから一般市民レベルまで、課題は山積みになっています

シエラレオネが抱える問題 《貧困》

シエラレオネには慢性的な貧困が存在します。シエラレオネには鉱物資源があり、土地も肥沃なようですが、一党独裁の時代から続く行政関係者の不正や、一般市民への基礎教育の欠如などが、首都と地方のあいだの極端な経済格差を生んでいます。もともとそのような状況だったところに、内戦による国のあらゆる面の破壊が、追い討ちをかけた形になっています。現行政府の支援も、全地域には行き届いていません。

近年でも、職がない、賃金が低すぎるといった理由で、子どもの学費をまかなえない家庭は珍しくないようですし、一日の食事を得ることさえ困難な家庭も多いようです。ひどい場合には、子どもを妻に押し付け、逃げてしまう夫などもあります。

改善されない貧困は、その場しのぎ的な物資支援に留まらず、教育や雇用創出といった持続的な支援がシエラレオネには必要、とされるゆえんです。

シエラレオネが抱える問題 《医療体制の不備》

約11年続いた内戦は、シエラレオネの医療体制を完全に破壊しました。NGO国境なき医師団からシエラレオネへ派遣されたことのある山本敏晴さんによれば、内戦中、正規の医師や看護師の大半が国外へ退去してしまい、医療の専門家ではない保健省の職員や (見返りを期待しての) ボランティアが病院

を運営するようになり、以前から存在する病院はほとんど機能しなくなったということです。

一方で、シエラレオネには多くの疾病が蔓延しています。下痢、マラリア、肺炎、エイズなどはその一例に過ぎません。また、貧困に伴う、主に子どもの栄養失調も深刻です。シエラレオネの幼児死亡率

は 1000 人に対し約 318 人で、世界的に非常に高い数値となっています。日本の幼児死亡率は 1000 人に対し 4 人です。統計上は、シエラレオネの約 3 分の 1 の子どもが、5 歳まで生きられないのです。

下痢など多くの病気は予防・治療ができます。そのような病気を撲滅していけば、幼児死亡率などを下げることは可能なのです。現在は、国境なき医師団などの支援団体が、シエラレオネ人が運営する医療体制を整えるため、活動しています。

シエラレオネが抱える問題 《基礎教育の不備》

シエラレオネの人々の大半は基礎教育を受けていません。約 20% という世界的に最低レベルの識字率が、その事実を裏付けています。基礎教育の普及が遅れている理由には、政府による義務教育制度整備の遅れ (RUF のサンコー代表は和平条件の一つとして無料義務教育のための予算確保を挙げたことがあります)、経済状況の悪化に伴う教師への給料未払い、学費を出せる家庭が少ないことなどがあります。校舎や文房具を十分に揃えることさえ、難しい状況です。

人口の大半が教育を受けられないということは、様々な点で重要な問題でしょう。たとえば、仮に医療体制が整い、幼児死亡率が下がったとしても、家族計画の教育がきちんと行われなければ、いたずらに子どもだけが増えてしまう、という状況になるかもしれませんし、そのような状況はさらなる貧困につながる可能性があるのです。より大きな視点で捉えれば、現在の爆発的人口増加に大きく貢献してしまうことにもなります。

また、基礎教育を受けなければ、法学や医学など、国にとって不可欠かつ高度な学問を修めることはできません。これは私のような高校生がよく言われることです。

シエラレオネが抱える問題 《RUF 兵士による民間人の四肢切断》

シエラレオネ内戦を開始した反政府勢力 RUF には、「住居放火班」などの専門部隊が存在し、そのなかでも「手切断部隊」はまれに見る異常なものでした。その名の通り、彼らは 1996 年頃から、多数の民間人の手足や指を切断するという残虐な行為を行ったのです。その背景には、同年 2 月に行われた複数政党制による選挙に RUF が参加できなかったことに対する不満と、単純な残虐趣味があったとされますが、RUF 兵士の心理の、より深い研究もされています。

RUF が民間人を殺害するよりも（もちろん、殺害もしていたのですが）好んでその四肢を切断したのは、被害者の労働能力を奪うことで、被害者を支援する家族や行政の予算と時間をも奪い、全体として国を疲弊させることができるからです。手や足を切断された後、十分な治療を受けられず、被害者が死亡する場合も少なくありませんでした。そして被害者は、決して大人だけでなく、幼い子どもたちも対象となっていました。さらに、むりやり戦闘員にされた少年兵が、同胞の手足を切断することもありました。

手足の切断以外にも、シエラレオネで行われた、「悲惨な」としか言いようの無い蛮行はいくつもあります。10歳前後の少女がレイプされ、目を潰され、殺害されたり、多くの幼い少女たちが RUF 将校の妻（というより性的対象としての愛人）にされていたという例を挙げるだけで、十分ではないかと思

います。

ただでさえ疲弊している国において、手足を切断された人々や、むりやり妊娠させられた女性（少女）たちが背負わされたハンディキャップは大きいのです。

シエラレオネが抱える問題 《少年兵の社会復帰》

RUF は各地の村を襲い、捕らえた子どもにマリファナなどを投与して興奮させ、死の恐怖を無くし、前線で戦う戦闘員にしていました。「少年兵」です。その数は 15,000 人を超えているといいます。少年兵の中には 10 代前半の子どももいましたし、強姦されたのち兵士にされた少女も少なくありませんでした。彼らは指揮官が命じるままに一般人の虐殺などに従事せざるを得ませんでした。旧ソ連で開発された AK47 と呼ばれる扱いが容易な自動小銃を持たせれば、子どもでも十分な戦力となったのです。

1999 年 11 月からの DDR 計画では、少年兵の解放も実施されました。彼らはカリタスやセーブ・ザ・チルドレンといった国際 NGO によって保護され、身体的・精神的治療と教育を受けましたが、麻薬中毒であったり、親が見つからなかったり、社会的差別を受けたりする場合があります。

元少年兵も内戦の被害者なのですが、彼らが殺人に参加させられたために、社会に普通の子どもの受け取ってもらえないのです。また、元少女兵が生きてゆくために売春をしたりしていることも、問題の一つです。

シエラレオネが抱える問題 《「血のダイヤモンド」問題》

RUF は、自国で豊富に産出するダイヤモンドをリベリアに密輸出し、見返りとして武器などの提供を受けていました。このように内戦・紛争の中で取引に使われたダイヤモンドは「血のダイヤモンド」または「紛争ダイヤモンド」と呼ばれ、正規品と同様、市場に出回っているといいます。

「血のダイヤモンド」排除のための国際貿易規制制度は、2000 年 5 月に南アフリカのキンバリーで開催された国際会議にちなみキンバリー・プロセスと呼ばれます。この制度は、簡単に言えば、ダイヤモンドを輸出する場合、紛争とは無関係であることを証明する政府発行文書の添付と、中身の交換を防止するための容器封印を義務付けるものです。約 40 ヶ国が参加しており、日本は 2003 年から導入しました。

治安を乱し、人々を恐怖に陥れる武装勢力の資金源を断つことは平和への近道の一つではないでしょうか。キンバリー・プロセスの強化と厳格な実施に加え、原産地を確認するという消費者の意識向上も求められています。

高校2年百合学院的人間学のススメ

テーマ 国際理解・古文

2年 組 氏名

蝦夷の人に飯を与へしかば、いと喜びながら、そこら食ひこぼしてけり。「やよ、米は玉の緒つなぐものなるを、などかくおろそかになすや」と問へば、「われらは、米食ひて命をまたうするにはあらず。鮭といふ魚食ひて生くるを」といふ。「さらば、鮭の魚にて命をのばゆるならば、それをば貴ぶべからん。いまその足にはきたるものは、鮭の皮ならずや」といへば、しばし頭傾けて、「君の足につけ給ふ草鞋とやらんは、かの米のいでくる草にはあらずや」といひしにぞ、あなどるまじきことよと人のいひしとぞ。わが国の人とは、よその事をば知らねば、蝦夷人のなりかたち、わが国の人と違へば、いと愚かにて何知らぬものよと思ふたぐひぞ多き。それより唐国にてもあれ、蝦夷の人にもあれ、ただ姿の見慣れぬを見ては、腹かかへて、ことばのわきがたきを聞きては、また笑ふ。心狭く、よそ見ぬ故なるべしといひぬ。(花月草子)

絵本をつくりまじよう。

I HINAKAKUJOSU

① シエラ・ネバダとはどのような所ですか。

② シエラ・ネーの歴史をまとめたもの。

③ シェアとオネの抱える問題についてまとめましょう。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

④ どのようなことをアビールする絵本をつくるのか、考えましょう。

⑤ どのようなストーリーをつくるか考えましょう。

A 主人公、語り手など登場人物をどのような人にするか、考えましょう。

B 構成を考えましょう。基本は起承転結です。まず大きく四つの展開を考え、それを詳しくして十枚前後のページを考えましょう。

起
承
転
結

テーマ 国際理解

2年 組 番 氏名

絵本をつくろう ()

総合学習で世界で起きているいろいろな問題について（特に貧困について）学び、考えました。この中で学び、考えたことをもとに詩を作りましょう。

1 今回の学習を振り返って、思いつくことを単語または短い文で書きだしてみよう。

次に、そのそれぞれから連想する言葉、気持ちなどを書き足していきましょう。

「貧困」という言葉だけではなく、

○つらい、悲しい、などの気持ち、どんな時、どのように ○自分と比べて

○その中での楽しみは何？ ○現地の人の立場で、 ○ダイヤモンドの立場で など視点をいろいろと考えてみましょう。

（先日、あるテレビ番組で、ボニー・ピンクさんがこのようにして作詞すると言っていましたよ。）

2 點和轉和共 $\rightarrow 45^\circ$

OGATA SADAKO

PART 1

Wars on a global scale may have ended, but civil wars and racial conflicts continue. Every year thousands of people escape from their homeland into neighboring countries in fear of persecution because of their race, religion, or nationality. These people are called refugees. The UNHCR, the office of the United Nations High Commissioner for Refugees, tries to protect these people and help them find ways to start their lives again in a peaceful environment.

In 1991, the United Nations elected a Japanese woman, Ogata Sadako, as the High Commissioner. She became one of the first women to head an agency of the UN. Although she was an expert in international affairs, many people within the UNHCR were quite surprised at her appointment because Ogata was not well known internationally.

However, year by year she became more and more respected for her accomplishments. Her strong will and leadership were helpful in relieving the difficult crises in Kosovo, Rwanda, East Timor and other countries. During her term, the UNHCR became one of the most important agencies of the United Nations.

Ogata says, "Things do not proceed in a linear way. Things do move if we act with patience for a long time. This is the basic foundation of my philosophy."

Ogata was re-elected twice, and served for 10 years.

PART 2

Ogata comes from a long line of statesmen and diplomats. Her great-grandfather was Prime Minister Inukai Tsuyoshi, and her grandfather, Yoshizawa Kenkichi, was a Foreign Minister. As her father was also a diplomat, she spent much of her childhood abroad in China and the United States.

In the early 50s, she won a scholarship for graduate study in America. American university life and her studies in international relations opened her mind to a much wider world.

After returning to Japan, she taught at several universities. During this time, she became involved in some UN activities, which eventually led to her becoming a minister at the Japanese mission at the UN in 1976. This work lasted for three years until she returned to teach again in Japan.

Ogata says, "While academic and public work are different, they are also similar in some ways. The way of thinking, analyzing and evaluating is similar whether you are teaching or involved more directly in public work."

As a teacher, she always encouraged her students to study hard and gain as much knowledge as possible. She herself was hard-working and well read. At her first meeting as the High Commissioner, she said, "I always read the necessary documents carefully, and I expect the same of you."

PART 3

Soon after she became the High Commissioner in 1991, a difficult problem arose in the Near East. Nearly two million Kurds in the northern part of Iraq became displaced people, more than the world had ever seen at one time. Some of them escaped into Iran, but many were stopped at the Iraqi border on their way to Turkey.

Ogata wanted to see their situation for herself. Arriving there she saw thousands of people, together with their belongings, stretching along the mountain paths as far as the eye could see. She was shocked at the sight and felt she had to protect them.

Back in Geneva she was perplexed. According to the regulations, the UNHCR could only help people who were officially recognized as refugees — people who had crossed a border to escape. This time, however, the Kurds who were being persecuted were within the border. She had two choices. One was to follow the regulations and do nothing for them. The other was to break the regulations and help them. After many meetings and long discussions, she finally decided to help the Kurds.

One month later, relief supplies such as tents and blankets were sent to the Kurdish refugees, who were suffering from hunger and cold. Ogata felt that helping refugees was more important than following a simple regulation. This operation attracted world attention and the UNHCR was praised for its effort.

PART 4

Refugee problems can sometimes be very complicated. Such an example was the Rwandan refugees who surged into Zaire, a neighboring country in central Africa, in 1994. In Africa, tribal wars cause serious problems. The Hutu and the Tutsi tribes in Rwanda have had a hostile relationship for a long time. That year the Hutus fled into Zaire. They were officially refugees, but among them were many Hutu soldiers who had fought in Rwanda and wanted to take revenge on the Tutsis.

Ogata asked Ghali, the Secretary-General of the United Nations, to send its forces to separate these soldiers from the civilians because she didn't want to assist soldiers who were planning for war. Ghali requested 50 countries to send their soldiers to Zaire, but only one country showed interest in the plan. Ghali, who himself is an African, said desperately, "They don't pay any attention to Africa. They are indifferent to Africa because it isn't economically important to them. But when a European country is involved, they pay attention."

Since the Hutu soldiers and the civilians were not separated, several NGOs from around the world withdrew from Rwanda, but the UNHCR continued to assist the refugees. For Ogata, there was no choice, because nearly half of the refugees were women and children. She could not abandon them.

PART 5

Near the end of her term, Ogata worked hard to prevent conflicts and establish peace in the world. She believed that the most pressing humanitarian challenge today was to promote the coexistence of divided communities.

In Bosnia, three groups of people — Serbs, Croats and Muslims — lived together. When old rivalries among these groups came to the surface in 1992, civil war broke out. Even after the war ended, the bad feelings remained.

In Bosnia, the UNHCR supports a joint enterprise among the groups which produces dolls as souvenirs. It is based on Ogata's belief that working together promotes peace and understanding. In this enterprise, Croats make the bodies of the dolls, Serbs weave the cloth, and the Muslims sew the costumes and finish them. The kilns, sewing machines and wool are provided by the UNHCR. The dolls wear the traditional costumes of the three groups. This enterprise has brought hope to many of the workers who lost their homes in the war.

Ogata believes the UNHCR should become a representative of refugees by being with them, by protecting their human rights and gaining their trust. During her term, Ogata has visited over 40 areas of conflict to find out for herself what she can do to solve refugee problems.

Her term as the High Commissioner expired in 2000, but her devotion to refugees still continues.

(参考文献 Unicorn Reading Lesson9)

PART 1

地球規模での戦争は終わったかもしれませんが、しかし、内戦や民族紛争は続いているのです。毎年何千もの人々が、民族、宗教、国籍のために迫害されることを怖れて、母国から隣接する国へと逃げています。このような人々は難民と呼ばれています。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は、これらの人々を保護し、彼らが再び平和な環境で暮らし始められるような方法を見つける手助けをするように努めています。

1991年に、国連は日本人女性の緒方貞子を国連難民高等弁務官に選びました。彼女は国連の機関の長となった最初の女性のうちのひとりです。彼女は国際問題の専門家ではありませんでしたが、UNHCRの多くの人々は彼女の任命にとっても驚きました。なぜなら、緒方は国際的にはよく知られていなかったからです。

しかしながら、年々彼女は彼女の業績に対してますます尊敬されるようになりました。彼女の強い意志と指導力は、コソボ、ルワンダ、東ティモールやその他の国々における難しい危機を回避することにおいて役立ちました。彼女の任期中、UNHCRは国連の中で最も重要な機関のひとつになりました。

緒方は言います。「物事は直線のように進まないものです。物事は、私たちが長い時間をかけて辛抱強く行動すれば確実に動きます。これが私の哲学の基礎となるよりどころです」

緒方は二度再選され、10年間この仕事に従事しました。

PART 2

緒方は政治家と外交官の家系の出身です。彼女の曾祖父は犬養毅首相で、祖父の吉澤謙吉は外務大臣でした。彼女の父も外交官だったため、彼女は子供時代の多くを海外の中国とアメリカで過ごしました。

1950年代の初め、彼女はアメリカの大学院での勉強のための奨学金を得ました。アメリカでの大学生活と国際関係の勉強が、彼女の心をより広い世界へと開いてくれました。

日本へ戻ったのち、彼女はいくつかの大学で教えました。この間に、彼女はいくつかの国連の活動に関わるようになりました。このことが、結果として1976年に彼女が国連の日本政府代表部の公使になることへと導いたのです。この仕事は、日本で再び教えるために戻ってくるまで3年間続きました。

緒方は言います。「大学の仕事と公の仕事は違いますが、ある意味において似ています。思考する方法、分析する方法、そして評価する方法は、教えるときも、公の仕事に直接関わるときも似ています」

教師として彼女は、熱心に勉強して、できるだけ多くの知識を得るようにいつも学生たちを励ましました。彼女自身、とても勉強家で読書家だったのです。高等弁務官に就任して最初の会議のときに彼女は言いました。「私はいつも必要な書類を注意深く読みます。そして同じことをあなた方にも期待します」

PART 3

彼女が1991年に高等弁務官になってまもなく、近東で難しい問題が起こりました。イラク北部の200万人近くのクルド人たちが難民となったのです。それは、世界が今まで一度に見た中で最高の難民の数でした。彼らのうちの一部はイランへ逃げました。しかし多くの人々は、トルコへ行く途中のイラクの国境で止められていました。

緒方は彼らの状況を自分自身で見たいと思いました。そこに到着すると、彼女は、身の回りの持ち物を持った何千人もの人々が、見渡す限りの山沿いの道に連なっているのを見ました。彼女はこの光景を見て衝撃を受け、彼らを守らなくてはならないと感じました。

ジュネーブに戻り、彼女は途方に暮れていました。規則によると、UNHCRは公式に難民と認められた人々、すなわち逃げるために国境を越えた人々しか助けることができないのです。しかしながらこの時は、迫害されているクルド人たちは国境の中にいたのです。彼女には2つの選択肢がありました。ひとつは、規則に従って、彼らに対して何もしないでいることでした。もうひとつは、規則を破り、彼らを助けることでした。たくさんの会議と長い議論の末、彼女はついにクルド人たちを助けることに決めました。

1ヶ月後、テントや毛布などの救援物資が、飢えと寒さに苦しんでいるクルド難民たちへ送られました。緒方は、難民たちを助けることの方が、ひとつの単純な規則に従うよりも、より重要であると感じたのです。この働きが世界の注目を引きつけ、UNHCRはその活動で賞賛されました。

PART 4

難民問題は時としてとても複雑です。1994年に中央アフリカの隣国であるザイールに押し寄せたルワンダ難民が、そのような例でした。アフリカでは、部族抗争が深刻な問題を引き起こします。ルワンダのフツ族とツチ族は、長い間敵対関係にありました。その年、フツ族がザイールに逃げて来ました。彼らは公式な難民でしたが、彼らの中にはルワンダで戦った多くのフツ族の兵士たちがいて、彼らはツチ族に復讐したいと望んでいたのです。

緒方は、ガリ国連事務総長に、兵士を民間人と区別するために国連軍を派遣するように依頼しました。なぜなら、彼女は戦争をたくらんでいる兵士たちを援助することは望まなかったからです。ガリは、50の国に対しザイールへ兵士を派遣するように要請しました。しかし、たった1カ国だけしかこの計画に興味を示しませんでした。彼自身もアフリカ人であるガリは、自嘲気味に言いました。「彼らはアフリカには注意を払いません。アフリカには関心がないのです。なぜなら、アフリカは彼らにとって経済的に重要ではないからです。しかし、ヨーロッパの国が関わっているときは、彼らは注意を払うのです」

フツ族の兵士たちと民間人が分けられなかったので、世界中から来たいくつかのNGOはルワンダから撤退しました。しかし、UNHCRは難民たちの支援を続けました。緒方にとって選択はなかったのです。なぜなら、難民たちの半数近くは女性と子供だったからです。彼女は、彼らを見捨てることはできませんでした。

PART 5

任期の終わりの方では、緒方は争いを防ぎ、世界に平和を確立するために懸命に働きました。今日最も緊急を要する人道的な挑戦は、分断された地域社会の共存を進めることだと彼女は信じていました。

ボスニアには、セルビア人、クロアチア人、イスラム教徒という3つのグループの人々が一緒に暮らしています。この3つのグループの古くからの敵対関係が1992年に表面化して、内戦が勃発しました。戦争が終わったあとでさえ、悪い感情が残りました。

ボスニアで、UNHCRは、おみやげとして人形を作っているこの3つのグループの合同事業を支援しています。それは、一緒に働くことは平和と理解を促すという緒方の信念に基づくものです。この事業において、クロアチア人たちは人形の本体をつくり、セルビア人たちは布を織り、イスラム教徒たちは衣装を縫って仕上げます。かまど、ミシンと毛糸は、UNHCRによって供給されます。人形は3つのグループの伝統的な衣装を着ています。この事業は、戦争で家を失った多くの労働者に希望をもたらしました。

緒方は、UNHCRは難民たちとともにいて、彼らの人間としての権利を守り、信頼を得ることによって、難民たちの代表者となるべきだと信じています。任期中に、緒方は難民問題を

解決するために何ができるのかを自ら見つけ出すために、争いが起こっている 40 以上の地域を訪れました。

高等弁務官としての彼女の任期は 2000 年に終了しました。しかし、難民に対する彼女の貢献はまだ続いています。

テーマ

宗教

月 日 ()

() 年 () 組 () 番

氏名 ()

「東北タイを救う9つのプロジェクト」

- A. 東北タイの農村開発を進めるため、日本から農業関係の技術者を派遣する。
- B. タイ政府への政府開発援助（ODA）を削減する。
- C. 日本で私たちの消費生活を見直し、資源や食べ物を節約する。
- D. 干ばつの時期に東北タイに日本の食料を送る。
- E. 東北タイの開発を行っている民間協力団体（NGO）を支援する。
- F. 東北タイの産物（米やシルク）を緊急に日本に輸入する。
- G. 東北タイの工業基盤を整備するために、道路や発電所を作る計画に日本のODAを供与する。
- H. 日本の国内において東北タイの実情を正確に伝えるような広報・教育活動を行う。
- I. 東北タイに農業に代わる産業の技術者を養成するために日本に研修生や留学生を受け入れる。

「東北タイを救う9つのプロジェクト」を読み、東北タイの貧困問題を解決するために効果的なプロジェクトに順位をつけてください。（理由も書くこと）

	あなたの 決定	理 由
1 番		
2 番		
3 番		
4 番		
5 番		
6 番		
7 番		
8 番		
9 番		

テーマ

宗教

月 日 ()

() 年 () 組 () 番

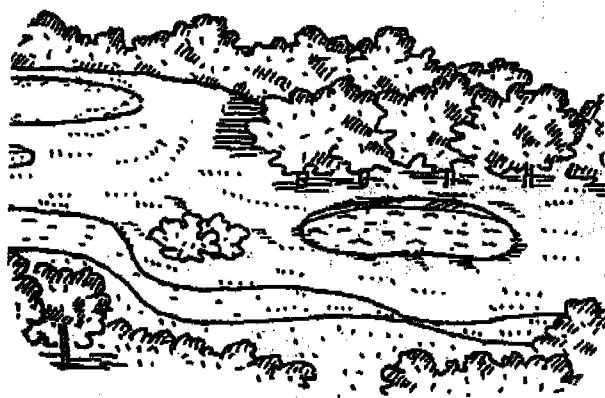
氏名 ()

無人島ゲーム

ここは熱帯の無人島です。

さて事情があつてグループのメンバーで、一生暮らすことになりました。これから相談して、この島に、持っていくものを10個、リストアップしてください。

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩



上記のものを、「必要不可欠なもの (needs)」と「あればいいもの (wants)」に区別してください

必要不可欠なもの (needs)	あればいいもの (wants)

まとめ

必要不可欠なもの (needs)	あればいいもの (wants)

メモ

メモ

Set against the backdrop of the chaos and civil war that enveloped 1990s Sierra Leone, "Blood Diamond" is the story of Danny Archer (Leonardo DiCaprio), an ex-mercenary from Zimbabwe, and Solomon Vandy (Djimon Hounsou), a Mende fisherman. Both men are African, but their histories and their circumstances are as different as any can be until their fates become joined in a common quest to recover a rare pink diamond, the kind of stone that can transform a life...or end it.

Solomon, who has been taken from his family and forced to work in the diamond fields, finds the extraordinary gem and hides it at great risk, knowing if he is discovered, he will be killed instantly. But he also knows the diamond could not only provide the means to save his wife and daughters from a life as refugees but also help rescue his son, Dia, from an even worse fate as a child soldier.

Archer, who has made his living trading diamonds for arms, learns of Solomon's hidden stone while in prison for smuggling. He knows a diamond like this is a once-in-a-lifetime find—valuable enough to be his ticket out of Africa and away from the cycle of violence and corruption in which he has been a willing player.

Enter Maddy Bowen (Jennifer Connelly), an idealistic American journalist who is in Sierra Leone to uncover the truth behind conflict diamonds, exposing the complicity of diamond industry leaders who have chosen profits over principles. Maddy seeks out Archer as a source for her article, but soon finds it is he who needs her even more.

With Maddy's help, Archer and Solomon embark on a dangerous trek through rebel territory. Archer needs Solomon to find and recover the valuable pink diamond, but Solomon seeks something far more precious...his son.

Directed by Edward Zwick, the action drama "Blood Diamond" stars Academy Award nominee Leonardo DiCaprio ("The Aviator"), Academy Award winner Jennifer Connelly ("A Beautiful Mind") and Academy Award nominee Djimon Hounsou ("In America"). The screenplay was written by Charles Leavitt, from a story by Leavitt and C. Gaby Mitchell.

Warner Bros. Pictures presents, in association with Virtual Studios, "Blood Diamond," a Spring Creek / Bedford Falls production, in association with Initial Entertainment Group, released by Warner Bros. Pictures, a Warner Bros. Entertainment Company. "Blood Diamond" is produced by Paula Weinstein, Edward Zwick, Marshall Herskovitz, Graham King and Gillian Gorfil. The executive producers are Len Amato, Kevin De La Noy and Benjamin Waisbren.

The film also stars Michael Sheen, Arnold Vosloo, David Harewood, Basil Wallace and introduces Kagiso Kuypers as Dia.

Collaborating with Zwick behind the scenes were director of photography Eduardo Serra, production designer Dan Weil, costume designer Ngila Dickson, and editor Steven Rosenblum. James Newton Howard composed the score.

This film has been rated "R" by the MPAA for "strong violence and language"

"Blood Diamond" opens nationwide on December 8, 2006, and will be released by Warner Bros. Pictures, a Warner Bros. Entertainment Company.

Q&A with Leonardo DiCaprio-TIME 紙より【ブラッド・ダイヤモンド】



TIME：脚本を手にする前、あなたはコンフリクト・ダイヤモンド（紛争ダイヤモンド）に関してどれくらい認識をしていましたか？

ディカプリオ：噂は聞いていました。コンフリクト・ダイヤモンドがこの世の中に確かに存在していたこと、それから、天然資源をアフリカから持ち去った結果として、人々がどれほど苦痛を味わったかを。でも、脚本を手にして、リサーチを始めるまで

は、詳しい話は理解していませんでした。1990 年後半のシエラ・レオネで起こったことと、ダイヤモンドが軍事的指導者達にどんな風に資金を供給していたかに関して(知った時)は、僕はかなりぞっとさせられました。アムネスティー・インターナショナルは、これらのダイヤモンドが売買された結果により、およそ 400 万人が命を失ったと算定しました。

(I'd heard whisperings. It was certainly out there in the public about what conflict diamonds were, and how people suffered as a result of natural resources being taken out of Africa. But I never understood the full story until I got this script and started doing research. I was pretty horrified about what went on in Sierra Leone in the late 1990s and how diamonds funded these warlords. Amnesty International projected around four million people lost their lives as a result of these diamond sales.)

TIME: あなたは決して a big bling guy (ジュエリー等でギラギラ飾った気取り屋の男)ではありませんよね? ロサンゼルス界限であなたをお見かけしますが、ダブダブのジーンズにベースボールキャップ、そしてプリウスに乗っていますよね。

ディカプリオ: そうですね、僕はダイヤモンドには全く興味がなかったですね。でもそれは人生でそれを買った事はないって言っているんじゃないんです。僕は(ダイヤモンドを購入したことはもちろん) あります。

(Nah, I never was into diamonds, but that isn't to say I've never bought one in my life ? I have.)

TIME：あなたのキャラクターはハードボイルドの傭兵でありダイヤモンド密輸入者/密売人です。あなたの演技/描写に、スティーブ・マックイーンやちょっとだけ（クラーク・）ゲブルを垣間みました。これは私の思いすごし/考えすぎなのか、それとも、昔のハリウッドがあなたのキャラクターを特徴付けたものでも何かあったのでしょうか？

ディカプリオ：『The Treasure of The Sierra Madre（放題：黄金——1948年 ハンフリー・ボガード主演）』ですね。僕はその映画が大好きなんです。まさに最高傑作ですね。ボガードの最高の役所だと思います。

(The Treasure of The Sierra Madre. I love that movie, wow. It really is a masterpiece. I think it's Bogart's best role.)

TIME：ボガードは大部分をサウンドステージ（映画撮影用の防音装置を施した舞台）で演じました。ブラッド・ダイヤモンドではあなたはアフリカへ足を運び、そこでおよそ6ヶ月間過ごしました。それであなたはどんな影響を受けましたか？

ディカプリオ：モザンビークは内戦によってかなりの荒廃をしてから、最近になってやっと経済回復をしています。（でも）そこには憂慮すべきAIDS発症率があります。10人のうち3〜4人がHIVもしくはAIDSにかかっているといったところでしょうか。その地に足を踏み入れ、その物事を直接目の当たりにすると、同情せずにはいられません。情緒的見地から言えばイライラしますね。アメリカでは、ただ自分たちの生活を送り続け、起き伏しし、これらの（アフリカで起きている）事には見て見ぬ振りをしてしまったりします。だけれど、その地にそれらのシチュエーションに、身を置かれると、本当に心を動かされるんです。返す言葉がありません。アフリカは多くの援

助と支援を必要としているんです。

(Mozambique only recently has had an economic resurgence, since the country had been pretty devastated by civil war. There's an alarming AIDS rate – something like three or four out of 10 people have HIV or AIDS. You can't help but being affected when you're in those locations and seeing that stuff face to face. It wears on you emotionally. In America, we can just continue living our lives and go through our daily routines and ignore stuff like that – but when you're there on location and in those situations, it really affects you. What can I say – Africa needs a lot of help and support.)

TIME：人々はこういった事を望んでいるのでしょうか？

ディカプリオ：経済の回復/復活ですね。でも人々はどんなに小さなことにもとても喜ぶんです。まさに文字通り、彼らはストリートでダンスを踊っていました。長い間続いた内戦があっても、耐え抜かなければならない様々な苦境であっても、彼らはそれでも街角で歓喜して踊っているんです。人生で人々がいかにしてそのような前向きな姿勢とエネルギーを保っていたのかを目にすることは、非常に驚くべき（驚くほど素晴らしい）ことでしたね。それは（僕を）鼓舞/奮起させました。アメリカへ戻った僕は、本当に誰の不平/不満/愚痴も耳に入れたくなくなりました。

(It's a resurging economy, but people are so happy with so little. Literally, they were dancing in the streets. They've had civil war there for so long and even with all the hardships that people have had to endure, they still dance on street corners with joy. It was pretty amazing to see how people kept such a

positive attitude and energy about life. It was inspiring. It makes you come back to America and really not want to hear anyone's complaints.)

TIME：あなたは、あなたのキャラクターについて学ぶために、（本物の）傭兵と一緒に歩いたり、また相当な量の書物を読んだそうですね。最も役に立ったのは为什么呢？

ディカプリオ：僕はいつもそれらの本を選んではざっと目を通す/拾い読みするんですが、俳優としての僕が探している情報を見つけるのは難しいですね。（だから、）僕はリアルな人間に会ってみるんです。それは正確に的を示して彼らに具体的な質問が出来ます。（リアルな人間の）誰かと一緒にバーに座っていると、キャラクターについて知っておく必要のあることは減多に得られずに、ちょっとした情報を見つけ出す（ちょっとした情報しか見つからない）本を取捨選択するよりも、全く違った動力が生まれます。

(I always pick and skim through these books but it's hard to find information you're looking for as an actor. I try to meet real people so I can pinpoint and ask them specific questions. When you're sitting in a bar with someone, it's a whole different dynamic than just sifting through a book finding little bits of information that rarely gives you what you need to know about a character.)

TIME：あなたはもう一つのタイプのアクションフィルム、銃の打ち合いが多く含まれた【ディパーテッド】を成功させたばかりです。アフリカ人傭兵のトレーニングはボストンのギャングのそれとはどう違うのでしょうか？

ディカプリオ：これは全く違っていましたね。南アフリカの軍隊の何人かは、世界でも最も高い（水準の）訓練を受けている男達で、彼らは他のどんな軍人のグループよりも、ブッシュの事を熟知していました。僕はカモフラージュに関してと、追跡の仕方についてを学びました。スタント・コーディネート・チーム全体が、それらしく見えるようアイデアを僕にくれるのに一役買ってくれました。

(This was a lot different. Some of these South African military guys were the most highly trained men in the world, and they really knew the bush better than any other group of soldiers. I learned about camouflage, how to track. The whole stunt coordination team helped give me an idea of what these guys were really like.)

TIME：あなたの南アフリカン・アクセントはどうやって作り上げたのでしょうか？

ディカプリオ：僕は人の真似が得意なんです。僕は南アフリカの様々な人々にインタビューして、僕が話し方を似せたいと思った一人の男に焦点を合わせました。次に、方言コーチの Tim Monich と僕がその彼（の話し方）を録音し、異なったエネルギーや異なったテンポなど様々な点/手法で彼に文章を言わせることで、僕は彼を拷問にかけて（笑）しまったというプロセス（があって作り上げたもの）です。それら録音したものは、僕は何度も繰り返し聞いていたので、一種の呪文のようなものになりましたね。

(I'm pretty good at imitating people. I interviewed a number of different people in South Africa and honed in on the one guy I wanted to sound like. Then it was a process where [dialect coach] Tim Monich and I recorded him and tortured him

(laughs) by making him say sentences in varying ways and different energies and different tempos. Those recordings became a kind of mantra I'd listen to over and over again.)

TIME：残忍で荒々しく肉体的なスタント、継続的な方言指導、100度（およそ摂氏37度）の気温、何がこの映画の仕事で一番辛かったことですか？

ディカプリオ：人々が辛い体験をしている所や、人々がその不穏な状況を悪用する残酷な便宜主義者を真似たりしている所へ、ロケに出掛けていくことです。それは、ただその環境におかれ、キャラクターを演じているだけの僕の心を強く動かしました。

(Being on a location where people are suffering and playing a cutthroat opportunist who is taking advantage of the situation there was disturbing. It really affected me, just being in that environment and playing that character.)

TIME：楽しむことは出来ました？

ディカプリオ：喜びに満ちた撮影だったとは言えないですね。楽しかったのは、週末の休みなると、サファリに出掛けた事。35頭のライオンの群れがヌーの死骸を食べているのを見たり、また（海では）マンタと一緒に泳いだりもしました。信じられないほど素晴らしかったです。アフリカの自然美は他に並ぶものがありませんね。

(I can't say it was a joyous shoot. The fun part was getting a weekend off and going on safari. I saw a pack of 35 lions eat a wildebeest carcass and swam with giant manta rays. That was unbelievable. Africa's natural beauty is unmatched.)

TIME: 【ブラッド・ダイヤモンド】のことはこちらに置いておいて——なぜハリウッドは突然アフリカに関心を持つようになったのでしょうか？

ディカプリオ: あなた方 (TIME 紙) は、長年に渡りすべての問題に関することを耳にした事のある世代を対象にしていますよね。僕 (の場合) は USA For Africa* を通しそれに関する事を聞いて育ったのを覚えています。それは僕らの世代とその後に続く世代にもしっかりと埋め込まれ (心に深く止まり)、人々が体験したその苦難のストーリーを僕らは未だに耳にしています。ボノのように、アーティスト達は確実に一役かっていますよね。これらの問題に取り組むために自分の時間の多くを犠牲にして、同等のことをこれまでにどれほどのアーティスト達が行っててきたかわかりません。それはとても奮起させられます。彼 (ボノ) は僕にとってヒーローである人達のうちの一人です。

(I think you're dealing with a generation that has heard about all the issues there for years. I remember growing up hearing about it through USA For Africa. It's just been so embedded in my generation and those generations after mine — we're still hearing stories of the hardships that people there go through. Certainly artists like Bono have helped. I don't know how many artists have done it on that level historically, sacrificing nearly all their time to deal with these issues. It's inspiring. He's one of my heroes.)

*USA For Africa

(チャリティーソング「ウィー・アー・ザ・ワールド」のリリースなどを手がけた、アフリカの飢餓救済のためのプロジェクト。)

TIME：この映画は、コンフリクト・ダイヤモンドの問題は 1990 年代に起きたことであり、ほぼ完全に根絶されていると強く主張するダイヤモンド産業界から、非難を受けました。宝飾業界はあなたにダイレクトにコンタクトをとってきたのですか？

ディカプリオ：僕は手紙を（数通）受け取りましたが、いずれにも応じませんでした。

（それらの手紙に書かれていたのは、）このこと（コンフリクト・ダイヤモンド問題）は激減したのだということを人々によく理解させるようにと強要する、莫大な PR でした。しかし、もしあなたが Global Witness もしくは Amnesty International に聞いてみたならば、重要な問題が、殊に Ivory Coast（コートジボワールの別称）には未だにあるのだと、彼ら（Global Witness もしくは Amnesty International）はあなたに伝えるでしょう。彼らはコンフリクト・ダイヤモンドを永久に絶ちたいと思っています。僕はそこへ出向いていこうとも、この問題のエキスパートを気取りたいとも思っていません。僕はエキスパートじゃないんですから、僕が専任ですることではないんですね。僕はその一部分を演じている一人の俳優なんです。もしこの映画が何か（影響あることを）するとすれば、それはこの問題へのより多くの認識を高めることをもたらすでしょうし、人々はより多くを問うようになるでしょう。そして（ダイヤモンド）業界は、実行可能な解決策/打開案/対策を持たなければならなくなるでしょう。

(I've gotten letters, and I didn't respond to any of them. There's been a huge PR push to let people get a better understanding that this stuff has dramatically decreased. But certainly if you talk to Global Witness or Amnesty International they'd tell you there are still major problems, especially on the Ivory Coast. They want to end conflict diamonds for good. I don't want to go out there and

project myself as an expert on the issue. I'm not an expert, and this is not what I do full time. I'm an actor who's playing a part. If the movie does anything, it will bring more awareness to the issue and people will be asking more questions, and the industry is going to have to have viable answers.)

TIME：来年あなたのオスカーデート（授賞式に同伴する女性）がダイヤモンドを身につけるのを許せそうですか？

ディカプリオ：もちろんこれからはダメですよ [笑]

(Certainly not from now on (laughs).)

photo: ニューヨーク Loews Regency Hotel にて

(PIYAL HOSAIN / FOTOS INTERNATIONAL / GETTY)

TIME 11/22 </> p>

「百合学院的人間学のススメ」テーマ（ ）

組

番氏名

この取組みを終えての感想を書きましょう。

[illegible]

この取組みについて、おうちの方に説明しましょう。

おうちの方の感想
